

東みよし町「旧三加茂町」の民家

民家班（日本建築学会四国支部徳島支所）

井河 明子*1 小田麻梨乃*2 鎌倉 和敏*3 喜多 順三*4 桑田 誠二*5 佐藤 秋成*6
 佐藤 弘美*2 高田 哲生*7 高浜 豊*8 谷中 俊裕*9 田村 栄二*10 那須 幸男*11
 林 茂樹*12 廣田 和正*13 福田 頼人*14 福富 礼佳*15 松井 孝樹*15 吉田 哲也*15

要旨：東みよし町「旧三加茂町」の茅葺き民家を対象に、悉皆的調査を行い、190軒を確認した。これらの民家を分布図や一覧表に整理し、立地や間取り、規模、構法などにより比較検討した結果、平野部の民家と山間部の民家で特徴が異なることが明らかになった。平野部の民家は、勝手の位置を除き、屋敷構えや間取り、下屋の形式など吉野川中・下流域に立地する民家と共通点が多い。山間部の民家は、ほとんどが山村型の屋敷構えを有し、中ネマ三間取、鍵座敷四間取など、剣山周辺の山村民家に固有の間取りが確認された。また、山間部でも緩傾斜地に位置する集落では、平野型の屋敷構えや四方下の主屋、土蔵やうだつの納屋などを有する民家が確認された。

キーワード：茅葺き民家、民家の間取り、屋敷構え、勝手の位置、下屋の形式

1. はじめに

東みよし町「旧三加茂町」（以下：「旧三加茂町」とする）は徳島県の西北部、吉野川中流域の南岸に位置する。地形は山地、台地、溪谷盆地、平地の4つに区分することができる。

集落は、吉野川の洪水のため、山麓部の溪谷盆地や台地部分に発達し（図1）、次第に平地の比較的高い場所に広がった。平野部に市街地が形成されたのは、吉野川の築堤や上流部のダム建設により、洪水被害がほとんどなくなった近代以降である（図2）。

旧三加茂町の民家を対象とした建築史的調査として、昭和51年（1976）に徳島県教育委員会が行った徳島県民家緊急調査がある。調査報告の「阿波の民家」には4軒の民家が紹介されているが、旧三加茂町の民家の概要を把握するには更なる調査が必要

としている。

2. 調査の目的

伝統的な形式を備える茅葺き民家を対象に、その規模や間取・構法・外観等について、時代とともにどのような変化を遂げてきたかを確認し、また県内他地域の茅葺き民家と比較検討することにより、旧三加茂町の茅葺き民家の特徴を明らかにすることを調査の目的とした。

なお、当初は茅葺き屋根であったものの小屋組を改造し、切妻や入母屋屋根に小屋下げしたものは、外観での判断が困難なため、調査対象から除外した。

3. 調査の方法

町内全域を対象に、茅葺き民家の悉皆的調査を行った。調査項目は以下の通りである。

・敷地：立地（平坦地・傾斜地）、方位

*1 とくしま・山・すまいまちネット *2 徳島大学大学院 *3 鎌倉建築設計事務所 *4 空間計画研究所 *5 桑田建設 *6 広島大学 *7 高田建築設計
 *8 高浜建設 *9 阿南高専 *10 徳島県建築士会 *11 那須建築工房 *12 林建築事務所 *13 廣田建築事務所 *14 くすのき建築研究所 *15 徳島大学

- ・平面形式：間取り(聞き取り及び実測による), 勝手(位置, 玄関構え)
- ・規模：間口寸法×奥行寸法
- ・屋根：仕上げ, 形状, 下屋の形式
- ・外壁：形式(真壁・大壁), 仕上げ材
- ・建築時期(聞き取りによる)

4. 調査民家の概要

図3に示す通り190軒の茅葺き民家を確認した。茅葺き民家は町内全域に分布しているが、吉野川の氾濫による洪水被害が多発していた平地部には少なく、平地部の南側の山裾に形成された段丘部や、加茂谷川、山口谷川、猪之谷川等の谷川沿いの溪谷盆地に多く見られる。

1) 利用状況

利用形態を見ると、住居として利用されているものは全体の半数以下の87軒(45.8%)、納屋などに転用されているものが24軒(12.6%)、空家となっているものが79軒(41.6%)である。なお、空家のうち9軒は廃屋であり、アプローチ道や敷地が植物で覆われ、建物に近づくことができなかつたため、詳細は不詳である。

調査民家のデータを表1に示す。



- 凡例
- 平野型屋敷構え+主屋右勝手
 - 平野型屋敷構え+主屋左勝手
 - △ 山村型屋敷構え+主屋右勝手
 - ▲ 山村型屋敷構え+主屋左勝手
 - ▽ 不明

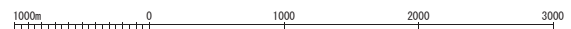


図1 山間部遠景



図2 平野部遠景

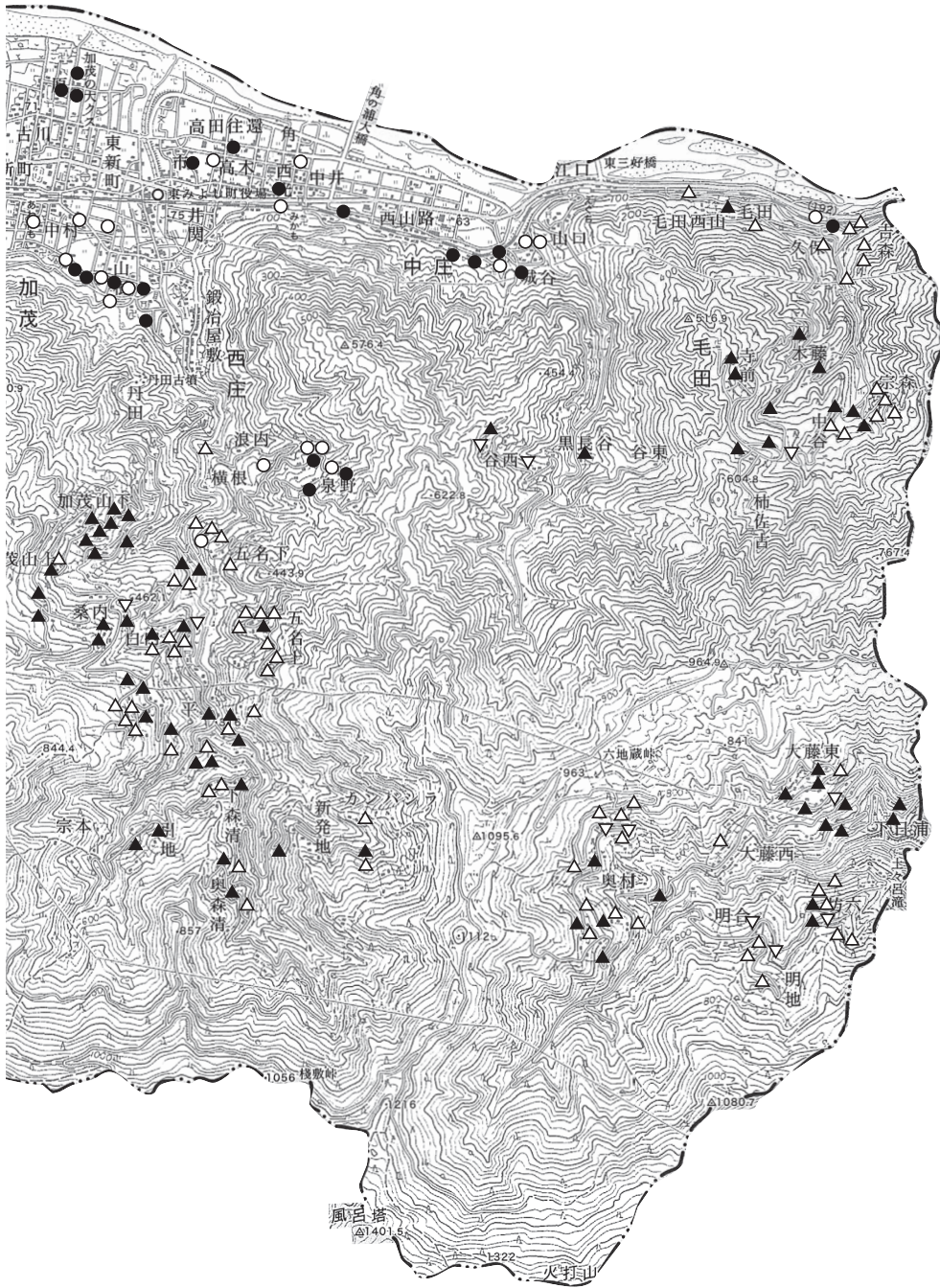


図3 茅葺き民家の分布図

表1 調査民家一覧表

S/N	所在地	屋根		下屋	外形寸法		勝手	玄関	間取	建築時期	主屋方位	敷地立地	利用形態	屋敷構え	備考
		材料	形状		間口	奥行									
1	毛田	トタン	寄棟	三方	4.5		右	無			北西	傾斜地	空屋	山村型	
2	毛田	トタン	寄棟	四方	5.5	4.0	右	無	四間取		西	傾斜地	居住	山村型	
3	毛田	トタン	寄棟	三方	4.0		右	無				傾斜地	空屋	山村型	周囲の増築により詳細は不明
4	毛田	トタン	寄棟	四方	7.0	4.0	右	無			北西	傾斜地	居住	山村型	
5	毛田	トタン	寄棟	四方	5.5	4.0	右	無	三間取	大正期	北西	傾斜地	居住	山村型	
6	毛田	トタン	寄棟	四方	7.5		右	無	四間取		東北	傾斜地	居住	山村型	屋根のトタンは40年ほど前、天井：ヤマト
7	毛田	トタン	寄棟	四方	5.5		右	無	四間取	大正期	南	平坦地	居住	平野型	
8	毛田	トタン	寄棟	四方	5.5		左	無	四間取		東	平坦地	居住	平野型	
9	毛田	トタン	寄棟	四方	6.5	3.5	右	無			北西	傾斜地	居住	山村型	
10	毛田	トタン	寄棟	四方	6.0	4.0	左	無			北東	傾斜地	空屋	山村型	外壁の一部にヒシャギ竹を使用
11	毛田	トタン	寄棟		4.0	3.5	右	無	四間取	明治期	北東	傾斜地	納屋	山村型	明治期に付近の家を移築、丸太材を多用
12	中庄	トタン	寄棟	四方	6.0		右	無	四間取		南西	傾斜地	納屋	平野型	敷地に余裕があり、傾斜地だが平野型の屋敷構え
13	中庄	トタン	寄棟	四方	6.5	3.5	右	無			南	傾斜地	不明	平野型	茅葺きの納屋が南側に
14	中庄	トタン	寄棟	三方	6.5		左	無			南	傾斜地	居住	平野型	
15	中庄	トタン	寄棟	四方	7.5		左	無	六間取	江戸後期	南	傾斜地	居住	平野型	
16	中庄	トタン	寄棟	四方	5.0		右	無	二間取		北	傾斜地	空屋	その他	
17	中庄	トタン	寄棟	四方	6.5		左	無	六間取	大正期	南	傾斜地	居住	平野型	
18	中庄	トタン	寄棟	四方	7.0		左	無			南西	傾斜地	居住	平野型	
19	中庄	トタン	寄棟	四方	4.5	3.0	左	無			南	平坦地	空屋	平野型	
20	中庄	トタン	寄棟	四方	6.0		右	無			南	平坦地	空屋	平野型	
21	中庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.0	左	無	四間取		南	平坦地	居住	平野型	
22	中庄	トタン	寄棟	四方	5.5	4.0	右	無			南	平坦地	居住	平野型	
23	西庄	トタン	寄棟	四方	5.0		左	無	四間取		南	平坦地	居住	平野型	
24	毛田	トタン	寄棟	四方	7.0	4.0	右	無			北東	傾斜地	居住	山村型	
25	毛田	トタン	寄棟	四方	7.0	3.5	左	無	中ネマ三間取		北東	傾斜地	空屋	山村型	
26	中庄	トタン	寄棟	四方	7.0	3.5	右	無	鍵座敷四間取	明治期	東	傾斜地	居住	山村型	
27	中庄	トタン	寄棟										空屋		詳細不詳
28	中庄	トタン	寄棟	四方	7.5	3.5	右	無			東	傾斜地	空屋	山村型	
29	中庄	トタン	寄棟	四方	6.5		右	無			北西	傾斜地	空屋	山村型	
30	毛田	トタン	寄棟	四方	7.5	4.0	右	無			北	傾斜地	空屋	山村型	土蔵・離れ
31	毛田	トタン	寄棟	四方	8.0	3.0	右	無	鍵座敷四間取	明治期	北東	傾斜地	居住	山村型	納屋・離れ
32	毛田	トタン	寄棟	四方	7.5	4.0	左	無			南東	傾斜地	空屋	山村型	納屋
33	毛田	トタン	寄棟		6.5	3.5	左	無			南東	傾斜地	空屋	山村型	納屋
34	毛田	トタン	寄棟	四方	5.5		左	無	四間取	明治期	南	傾斜地	居住	山村型	
35	毛田	トタン	寄棟	四方	7.0	3.0	左	無			南東	傾斜地	空屋	山村型	納屋・離れ
36	毛田	トタン	寄棟	四方	6.5	3.0	左	無			南東	傾斜地	空屋	山村型	納屋
37	毛田	トタン	寄棟										空屋		詳細不詳
38	毛田	トタン	寄棟	四方	6.5	4.5	左	無	四間取	明治期	南	傾斜地	居住	山村型	納屋・土蔵
39	毛田	スレート	寄棟	四方	6.5	4.0	左	無	中ネマ三間取	明治期	南東	傾斜地	居住	山村型	
40	毛田	トタン	寄棟	四方	6.5	5.5	左	無	四間取	昭和2年	南	傾斜地	居住	山村型	
41	毛田	トタン	寄棟	四方	7.0	4.0	左	無	三間取	昭和2年	南	傾斜地	居住	山村型	南・東面出桁
42	毛田	トタン	寄棟	四方	8.0	4.5	右	無	鍵座敷四間取		南東	傾斜地	空屋	山村型	前便所、納屋にうだつ
43	毛田	トタン	寄棟	四方	4.5	3.0	左	無			南	傾斜地	空屋	山村型	
44	毛田	トタン	寄棟	四方	7.5	4.5	右	無			南	傾斜地	空屋	山村型	
45	中庄	トタン	寄棟	四方	6.0		右	無	四間取	昭和24年	南	傾斜地	空屋	山村型	
46	中庄	スレート	寄棟	四方	6.5	4.0	右	無	四間取		南	傾斜地	居住	山村型	
47	中庄	トタン	寄棟	四方	7.0	4.0	左	無			南	傾斜地	空屋	山村型	
48	中庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	左	無	鍵座敷四間取	昭和初期	東	傾斜地	居住	山村型	
49	加茂	トタン	寄棟	四方			右	無			南	平坦地	空屋	平野型	門、納屋
50	加茂	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	左	無	四間取	明治期	南	平坦地	居住	平野型	
51	加茂	トタン	寄棟	四方	6.0	5.5	左	無			南	平坦地	空屋	平野型	現在は納屋として使う。床高さは30cmほど
52	加茂	トタン	寄棟	四方	6.5		左	無			南	平坦地	空屋	平野型	カマヤが北へ突出
53	加茂	トタン	寄棟	四方	5.5		右	無		明治期	南	平坦地	居住	平野型	
54	加茂	トタン	寄棟	四方	6.5	4.0	左	無			南	傾斜地	空屋	山村型	
55	加茂	トタン	寄棟	四方	5.75		左	無	四間取	昭和21年	南	平坦地	空屋	平野型	洪水の害は無し
56	加茂	トタン	寄棟	四方	6.5	4.5	右	無			南	平坦地	空屋	平野型	
57	加茂	トタン	寄棟	四方	6.0		左	無	四間取		南	平坦地	空屋	平野型	
58	加茂	トタン	寄棟	四方			右	無			南	平坦地	空屋	平野型	改造多い
59	加茂	トタン	寄棟	四方	6.0		右	無			南	平坦地	居住	平野型	
60	加茂	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	右	無	四間取		南	平坦地	空屋	平野型	土置き天井
61	加茂	トタン	寄棟				一	無			南	傾斜地	空屋	山村型	
62	加茂	スレート	寄棟	四方	7.0		右	無			南西	傾斜地	居住	平野型	
63	西庄	トタン	寄棟	四方	7.5	一	右	無			東	傾斜地	空屋	山村型	

S/N	所在地	屋根		下屋	外形寸法		勝手	玄関	間取	建築時期	主屋方位	敷地立地	利用形態	屋敷構え	備考
		材料	形状		間口	奥行									
64	西庄	トタン	寄棟	四方	7.5	4.5	左	無	鍵座敷四間取	明治期	東	傾斜地	居住	山村型	インキョ、納屋
65	西庄	トタン	寄棟	四方	7.0	—	左	無			東	傾斜地	空屋	山村型	納屋は大壁
66	西庄	トタン	寄棟				右	無			東	傾斜地	空屋	山村型	
67	西庄	トタン	寄棟	三方	6.25	3.0	右	無			北	傾斜地	空屋	山村型	
68	西庄	トタン	寄棟	二方	4.5	2.0	左	無			東	傾斜地	空屋	山村型	
69	中庄	トタン	寄棟	四方			右	無			南西	傾斜地	空屋	山村型	
70	中庄	トタン	寄棟	四方	3.5	2.0	右	無	横二間取	明治45年	南	傾斜地	居住	山村型	煙草の乾燥小屋として利用、H10にトタンを巻いた
71	中庄	トタン	寄棟								南	傾斜地	空屋	山村型	詳細不詳
72	中庄	トタン	寄棟	四方	7.0		左	無			南	傾斜地	居住	山村型	
73	中庄	トタン	寄棟	四方	6.5	4.0	左	無			東	傾斜地	空屋	山村型	
74	中庄	トタン	寄棟	四方	6.5	4.0	右	無	鍵座敷四間取	明治20年	東	傾斜地	居住	山村型	茅は下ろしている、オトシコミ構法、杉皮でオブタ
75	中庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.0	右	無	鍵座敷四間取	昭和初期	南東	傾斜地	居住	山村型	
76	中庄	トタン	寄棟	四方	7.5	4.0	右	無			北東	傾斜地	空屋	山村型	
77	中庄	トタン	寄棟										空屋	山村型	詳細不詳
78	中庄	トタン	寄棟	四方	7.5	4.0	右	無			南西	傾斜地	空屋	山村型	
79	中庄	トタン	寄棟	四方	6.25		右	無			南西	傾斜地	空屋	山村型	
80	中庄	トタン	寄棟	四方							東	傾斜地	空屋	山村型	詳細不詳
81	中庄	トタン	寄棟	無し							南東	傾斜地	空屋	山村型	詳細不詳
82	中庄	トタン	寄棟	四方	7.5	4.5	右	無			東	傾斜地	居住	山村型	
83	中庄	トタン	寄棟	四方	7.0	3.75	右	無			北東	傾斜地	空屋	山村型	
84	中庄	トタン	寄棟	なし	5.5	3.5	右	無			北	傾斜地	空屋	山村型	
85	中庄	トタン	寄棟	四方			左	無			西	傾斜地	居住	山村型	
86	毛田	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	右	無			南	傾斜地	空屋	山村型	
87	毛田	トタン	寄棟	四方	5.5	4.0	右	無	四間取	大正7年	南	傾斜地	空屋	山村型	土置き天井
88	毛田	トタン	寄棟	なし			右	無			南	傾斜地	居住	山村型	
89	毛田	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	右	無			西	傾斜地	居住	山村型	
90	毛田	トタン	寄棟	四方	6.75	3.5	左	無			南	傾斜地	空屋	山村型	
91	毛田	トタン	寄棟	四方	5.75		右	無		昭和初期	西	傾斜地	居住	山村型	
92	毛田	スレート	寄棟	四方	6.5	3.5	右	無	四間取	大正10年	西	傾斜地	居住	山村型	大麦で葺く
93	毛田	トタン	寄棟	四方	7.0		左	無			東	傾斜地	居住	山村型	カマヤが突出
94	毛田	トタン	寄棟	四方							—	傾斜地	空屋	山村型	詳細不詳
95	毛田	トタン	寄棟	四方	6.0	4.0	左	無			南	傾斜地	居住	山村型	
96	毛田	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	左	無			南	傾斜地	空屋	山村型	
97	毛田	トタン	寄棟	四方	6.0	3.25	左	無			南西	傾斜地	空屋	山村型	
98	毛田	トタン	寄棟	四方	6.5	4.5	左	無			東	傾斜地	居住	山村型	
99	毛田	トタン	寄棟	四方	7.0	4.0	左	無			南東	傾斜地	空屋	山村型	
100	毛田	トタン	寄棟	四方	6.25	3.5	左	無	四間取		南東	傾斜地	空屋	山村型	
101	毛田	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	左	無			南東	傾斜地	居住	山村型	
102	毛田	トタン	寄棟	四方	6.0	4.25	左	無			南西	傾斜地	空屋	山村型	
103	毛田	トタン	寄棟	三方	4.0	3.5	—	無			北	傾斜地	空屋	山村型	
104	毛田	トタン	寄棟	四方	7.0	4.0	左	無	四間取	江戸後期	南	傾斜地	居住	山村型	元々葦き下ろし、40年前にトタン、柱はちようなはつり
105	毛田	トタン	寄棟								東	傾斜地	空屋	山村型	詳細不詳、納屋も茅葺き
106	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	右	無	四間取	江戸後期	南	平坦地	倉庫	平野型	
107	西庄	トタン	寄棟	四方	4.0	2.0	左	無	二間取		南	平坦地	倉庫	平野型	
108	加茂	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	右	無	四間取	江戸後期	南	平坦地	空家	平野型	
109	加茂	トタン	寄棟	四方	5.0	3.0	左	無			南	平坦地	空家	平野型	
110	加茂	トタン	寄棟	四方	3.5	3.0	左	無			東	傾斜地	空家	平野型	
111	加茂	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	右	無			南	平坦地	居住	平野型	
112	加茂	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	左	無			南西	平坦地	倉庫	平野型	
113	加茂	瓦	寄棟	四方	3.5	2.5	右	無			南東	平坦地	居住	平野型	昭和5年移築
114	加茂	トタン	寄棟	四方	4.0	3.0	右	無		明治末期	南西	平坦地	空家	平野型	
115	加茂	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	右	無			南西	平坦地	空家	平野型	
116	加茂	瓦	寄棟	四方	7.0	4.5	左	無		江戸後期	南	平坦地	居住	平野型	
117	加茂	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	右	無			南西	傾斜地	居住	平野型	
118	加茂	トタン	寄棟	四方	3.5	3.5	左	無		江戸後期	南東	傾斜地	居住	平野型	
119	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.0	左	無			南東	傾斜地	空家	山村型	
120	西庄	トタン	寄棟	四方	4.5	3.0	左	無			南東	傾斜地	空家	山村型	
121	西庄	トタン	寄棟	四方	6.5	4.0	左	無			東	傾斜地	空家	山村型	
122	西庄	トタン	寄棟	四方	5.0	3.5	左	無			東	傾斜地	空家	山村型	
123	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	左	無	四間取	大正初期	南東	傾斜地	居住	山村型	
124	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	左	無			南東	傾斜地	居住	山村型	
125	西庄	トタン	寄棟	四方	6.5	3.5	右	無			南東	傾斜地	居住	山村型	
126	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	左	無	四間取	昭和5年	南	傾斜地	居住	山村型	
127	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.0	左	無		大正初期	南	傾斜地	空家	山村型	

S/N	所在地	屋根		下屋	外形寸法		勝手	玄関	間取	建築時期	主屋方位	敷地立地	利用形態	屋敷構え	備考
		材料	形状		間口	奥行									
128	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.0	左	無			南東	傾斜地	空家	山村型	
129	西庄	角波	寄棟	四方	5.5	4.0	左	無	四間取	明治初期	東	傾斜地	居住	山村型	しころ葺き
130	西庄	トタン	寄棟	四方	5.75	3.5	左	無	四間取	大正末期	南東	傾斜地	居住	山村型	
131	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	4.0	左	無	四間取	昭和初期	南東	傾斜地	居住	山村型	
132	西庄	瓦	寄棟	四方	5.5	3.5	左	無	四間取	戦後	東	傾斜地	居住	山村型	
133	西庄	トタン	寄棟	四方	4.5	3.0	右	無			東	傾斜地	空家	山村型	
134	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.0	右	無			東	傾斜地	空家	山村型	
135	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	4.0	左	無	四間取		東	傾斜地	居住	山村型	
136	西庄	トタン	寄棟										空家	山村型	詳細不詳
137	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	左	無			東	傾斜地	居住	山村型	
138	西庄	トタン	寄棟	四方	5.0	3.5	左	無			南東	傾斜地	空家	山村型	
139	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	右	無			北	傾斜地	居住	山村型	
140	西庄	トタン	寄棟	無し	5.5	3.5	左	無			東	傾斜地	空屋	山村型	
141	西庄	トタン	寄棟	無し	—	—	—	—					空屋	山村型	
142	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	右	無			東	傾斜地	空屋	山村型	
143	西庄	トタン	寄棟	無し	6.0	3.5	右	無			東	傾斜地	空屋	山村型	
144	西庄	トタン	寄棟	無し	6.0	3.5	右	無			北	傾斜地	空屋	山村型	
145	西庄	トタン	寄棟	四方	5.0	3.5	左	無	四間取	明治期	東	傾斜地	居住	山村型	
146	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	左	無			西	傾斜地	居住	山村型	
147	西庄	トタン	寄棟	四方	5.0	3.5	右	無		大正期	西	傾斜地	空屋	山村型	
148	西庄	トタン	寄棟	四方	7.0	4.0	左		鍵座敷四間取	江戸後期	東	傾斜地	居住	山村型	昭和5年頃に購入
149	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	4.0	右	無			北		居住	山村型	昭和48年頃にトタンを巻く
150	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	右	無			西	傾斜地	空屋	山村型	
151	西庄	トタン	寄棟	無し	6.5	4.0	右	無			西	傾斜地	居住	山村型	
152	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.5	左	無			北	傾斜地	空屋	山村型	
153	西庄		寄棟	無し	5.0	4.0	右	無	四間取	昭和7年	北	傾斜地	居住	山村型	
154	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	3.0	右	無			北	傾斜地	居住	山村型	
155	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	右	無	四間取		北	傾斜地	居住	山村型	
156	西庄	トタン	寄棟	無し	5.5	3.5	右	無			北	傾斜地	居住	山村型	
157	西庄	トタン	寄棟	無し	5.0	3.5	右	無		大正期	西	傾斜地	居住	山村型	
158	西庄	トタン	寄棟	四方	6.5	4.0	右	無			北	傾斜地	居住	山村型	
159	西庄	トタン	寄棟	一方	5.5	3.5	右	無	二間取		東	傾斜地	空屋	山村型	
160	西庄	トタン	寄棟	四方	3.0	2.5	左	無	四間取	大正期	南	傾斜地	居住	山村型	二間取の改造と考えられる
161	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	4.0	右	無	四間取	明治25年頃	東	傾斜地	居住	山村型	
162	西庄	トタン	寄棟	三方	5.5	3.5	右	無	四間取		東	傾斜地	居住	山村型	
163	西庄	茅	寄棟	四方	5.5	4.0	左	無	四間取	明治25年頃	東	傾斜地	居住	山村型	
164	西庄	トタン	寄棟	無し	5.0	3.5	左	無	四間取	昭和20年頃	東	傾斜地	空屋	山村型	
165	西庄	トタン	寄棟	一方	6.0	3.5	左	無	四間取		北東	傾斜地	空屋	山村型	下屋は増築、当初は葺きおろし。玄関も後補
166	西庄	トタン	寄棟	四方	3.5	2.5	左	無	三間取	明治期	北	傾斜地	居住	山村型	
167	西庄	トタン	寄棟	四方	6.5	4.0	右	無		明治期	北西	傾斜地	空屋	山村型	
168	西庄	トタン	寄棟	二方	5.5	3.0	左	無	中ネマ三間取	昭和初期	北西	傾斜地	居住	山村型	
169	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	4.0	右	無	四間取		北西	傾斜地	空屋	山村型	
170	西庄	トタン	寄棟	二方	6.5	3.5	右	無			北	傾斜地	空屋	山村型	
171	西庄	トタン	寄棟	四方	4.5	3.5	左	無	食い違い四間取	大正期	北東	傾斜地	居住	山村型	
172	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	4.5	左	無	四間取		北	傾斜地	空屋	山村型	
173	西庄	トタン	寄棟	四方	5.0	3.5	左	無	四間取	明治期	北西	傾斜地	居住	山村型	裏面の仕上げは土壁にヒシャギ竹
174	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	4.5	右	無			北東	傾斜地	空屋	山村型	
175	西庄	トタン	寄棟	四方	5.0	4.0	右	無	四間取	明治期	西	傾斜地	居住	山村型	ヤマト天井、芋ツボ、側面にヒシャギ竹
176	西庄	トタン	寄棟	四方	7.0	3.5	右	無	四間取	昭和19年	西	平坦地	空屋	平屋型	たばこを作っていた
177	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	右	無	四間取	明治頃	南	平坦地	居住	平屋型	
178	西庄	トタン	寄棟	四方	4.0	3.0	右	無	横二間取		西	平坦地	空屋	平屋型	
179	西庄	トタン	寄棟	四方	4.5	3.0	左	無	横二間取		東	平坦地	空屋	平屋型	
180	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	右	無	四間取	享保3年	北西	平坦地	居住	平屋型	
181	西庄	トタン	寄棟	四方	5.0	3.0	左	無	横二間取		北西	平坦地	空屋	平屋型	
182	西庄	トタン	寄棟	四方	5.5	4.0	左	無	四間取	明治期	北	平坦地	居住	平屋型	
183	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.0	右	無		明治頃	西	傾斜地	居住	山村型	トタンは40年前くらいに葺いた
184	西庄	トタン	寄棟	四方	4.0	3.0	右	無				平坦地	空屋	山村型	納屋はタバコの乾燥小屋として使われていた
185	西庄	瓦	寄棟	四方	6.0	4.0	右	無	四間取	明治初期	南西	平坦地	居住	平屋型	納屋を移築した
186	西庄	トタン	寄棟	無し	3.5	2.5		無			北東	平坦地	居住	山村型	詳細不詳
187	西庄	トタン	寄棟	四方	4.5	3.0	右	無		明治期	南	傾斜地	空家	山村型	ヒアリングによると、新発地で一番古いらしい
188	西庄	トタン	寄棟	四方	5.0	3.5	左	無	元が四間取	明治期	北西	傾斜地	空家	山村型	トタンを巻いて40年
189	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	3.5	右	無			北東	傾斜地	空家	山村型	納屋も茅葺き
190	西庄	トタン	寄棟	四方	6.0	4.0	右	無	五間取	明治期	北	傾斜地	居住	山村型	当初からオクタつき。昭和55年にトタンを巻く

2) 屋敷構え

前述の通り、茅葺き民家は平野部や段丘部、吉野川の支流沿いの溪谷盆地に多く分布している。平野部や段丘部の比較的平坦な場所に位置する茅葺き民家の敷地は、地形による制約が少ないため、比較的広く整形であるものが多い。主屋は敷地の北側に配置され、納屋などの付属屋は主屋の勝手側に設けられる(図4)。なお、土蔵が設けられる場合は主屋の勝手とは関係なく、乾(北西)方向に設けられることが多い。このような平野型の屋敷構えは、県内の平野部に共通して見られるものである。今回の調査では、38軒の平野型屋敷構えが確認された。

溪谷盆地に立地する民家の敷地は、傾斜地に位置するため、斜面を切り盛りし、谷川に石垣を築き等高線に沿って造成している。そのため、主屋や付属屋などの建物は等高線に沿って一列に配置されている(図5)。このような山村型の屋敷構えは、県内の山間部に共通して見られるものである。今回の調査では、129軒の山村型屋敷構えが確認された。

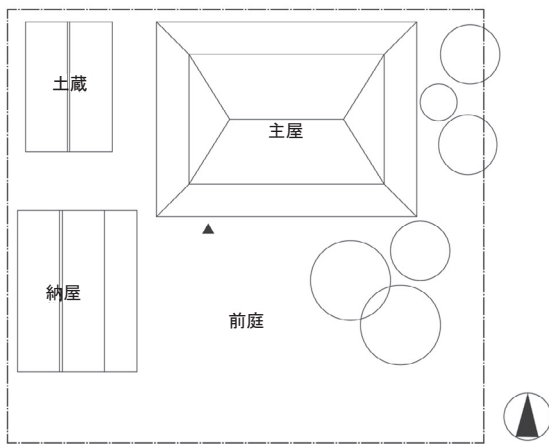


図4 平野型の屋敷構え

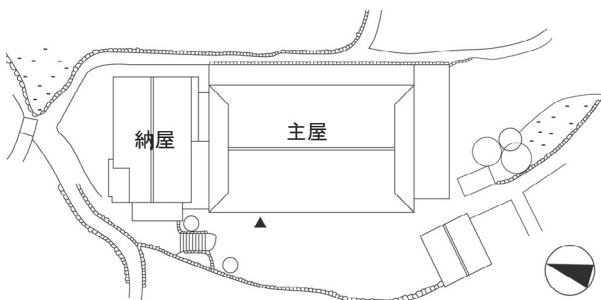


図5 山村型の屋敷構え

なお、溪谷盆地でも、泉野集落などの比較的緩やかな傾斜地では、石積みなどにより奥行きのある整形敷地を造成し、平野型の屋敷構えとしているものが見られた。

3) 建設時期

聞き取りなどにより主屋の建築時期が明らかになったのは60軒である(表3)。時代別に見ると、明治時代が最も多く、次いで、大正、昭和(戦前)、江戸、昭和(戦後)の順になっている。

年代が明らかになった民家の中で、最も古いものが享保3年(1718)、最も新しいものは昭和24年(1949)の建築である。

4) 主屋の規模(間口)

主屋の規模を間口寸法で見ると、5~7間けんが最も多く、全体の6割以上を占める。この傾向は、平野型と山村型の屋敷構えに共通する。間口が4間以下の小規模民家や8間以上の大規模民家はきわめて少ない(図6)。

5) 主屋の方位

主屋の方位は、平野型と山村型で大きく異なる

	平野型 屋敷構え	山村型 屋敷構え	合計
江戸時代(~1868)	5	2	7
明治時代(1868~1912)	6	21	27
大正時代(1912~1925)	2	10	12
昭和(戦前)(1925~1945)	1	9	10
昭和(戦後)(1945~)	1	3	4
合計	15	45	60

表3 主屋の建築時期

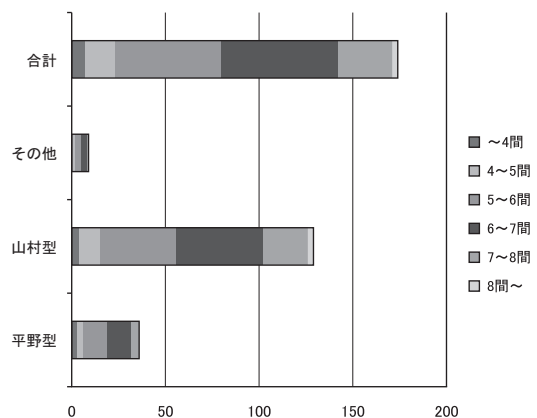


図6 主屋の規模(間口寸法)

(図7)。平野型の屋敷構えを有する民家では、ほとんどが南面して主屋が建てられている。南面していない民家も、南西か南東、東向きに建てられている。

一方、山村型の屋敷構えの民家では、東向きと南向きが多いが、西向きや北向きなど様々な方向を向いている。これは、地形の制約から敷地は谷に向かって造成されるため、主屋も谷に向かって配置されることによるものと考えられる。

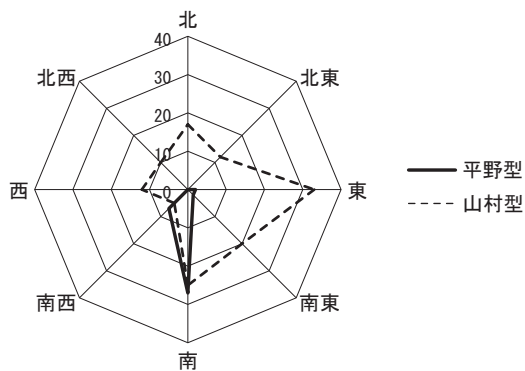


図7 主屋の方位

6) 間取り

間取りが明らかになったのは74軒である(表4)。四間取(図8)が最も多く、全体の66%を占める。

屋敷構えが平野型の場合、8割近くが四間取で、残る4軒も横二間取(図9)、六間取と整形型の間取となっている。整形の四間取や六間取は、吉野川中・下流域の平野部に多く見られる形式の間取りである。

山村型屋敷構えの民家でも、四間取が6割強と最も多い。建築時期は、江戸時代から昭和(戦後)まで、あらゆる時代に建てられている。平野型屋敷構えの民家と大きく異なるのは、四間取以外の様々な間取りが確認された点である。中ネマ三間取(図10)は、剣山周辺や吉野川中・上流の山間部に古くから見られる間取りであるが、今回の調査では3軒見られた。そのうちの2軒は明治時代と昭和初期の建築と確認ができた。鍵座敷四間取(図11)は、接客座敷であるオモテの間が上手奥に配置され、3室の座敷が矩折れに並ぶ間取りである。中ネマ三間取の発展形と考えられ、主として横二間取や中ネマ三間取が見られる剣山周辺の山間部に分布する形式で、本調査では9軒を確認した。その中で建築時期が確認

	平野型 屋敷構え	山村型 屋敷構え	合計
横二間取	4	3	7
三間取		3	3
中ネマ三間取		3	3
四間取	16	33	49
鍵座敷四間取		9	9
五間取		1	1
六間取	2		2
合計	22	52	74

表4 主屋の間取り

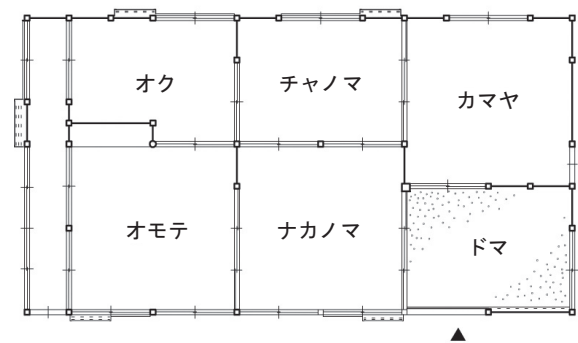


図8 四間取

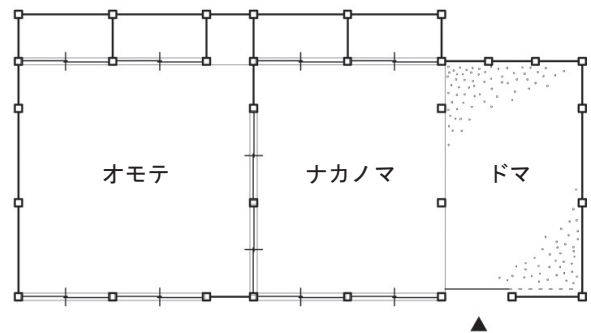


図9 横二間取

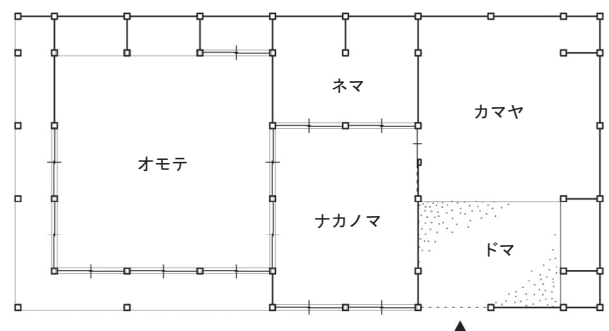


図10 中ネマ三間取

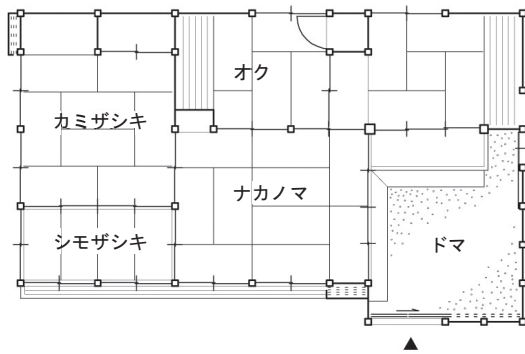


図11 鍵座敷四間取

されたのは7軒あり、明治時代が4軒、江戸後期と大正時代、昭和初期がそれぞれ1軒であった。四間取、中ネマ三間取、鍵座敷四間取以外では、横二間取が3軒、三間取が3軒、五間取が1軒確認できた。

7) 勝手

勝手とはドマに通じる出入口を指すが、これが正面から見て左側にあるものを左勝手(図12)、右側にあるものを右勝手(図13)と呼ぶ。今回の調査では、平野型の民家、山村型の民家ともほぼ同数であった(図14)。

吉野川に近い平地部では左勝手が多く見られた。これは、洪水被害の多かった吉野川中下流域の平野部の民家に共通する特徴である。南面する主屋の西側、つまり上流側の妻面に壁を設け(大壁としていくものが多い)、洪水による建物への被害を少なくするためと考えられる。

なお、今回の調査では、庄屋屋敷等に見られる接客のために設けられた「玄関構え」を備える民家は確認できなかった。



図12 左勝手の民家



図13 右勝手の民家

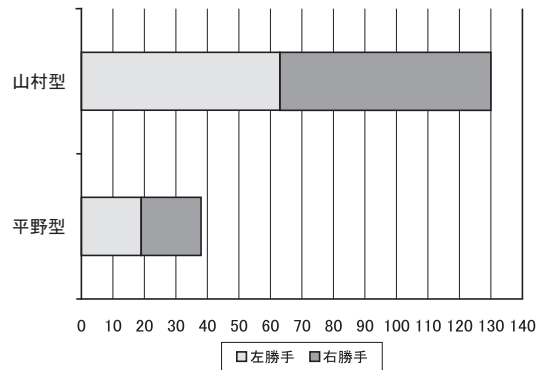


図14 主屋の勝手

8) 屋根

上屋屋根はいずれも寄棟であった。茅葺きのままのものではなく、トタンや新しいものはスレート瓦で覆われている。聞き取りによると、屋根をトタンで覆うようになったのは、昭和30年代以降である。当初の屋根材は、平野部ではコバクガラや稲藁を、山間部では山茅を用いていた。

外周部に下屋を設けたものが多く、茅葺き屋根を軒先まで伸ばす「葺き降ろし」形式の民家は山間部で12軒(9.3%)であった(図15・16)。平野型民家では、1軒を除き全てが四方に瓦葺きの下屋を設ける「四方下」である(図17)。また、山村型民家でも8割近くが四方に下屋を設けている。

9) 外壁・外部建具

外壁は真壁の荒壁仕上げが最も多く、荒壁の上に漆喰を塗っているものも見られた。また、平側を真壁として、妻側を大壁とするものもあった。山間部では、大壁の荒壁に、祖谷地方周辺でよく見られるヒシャギ竹を貼っているものがあった(図18)。

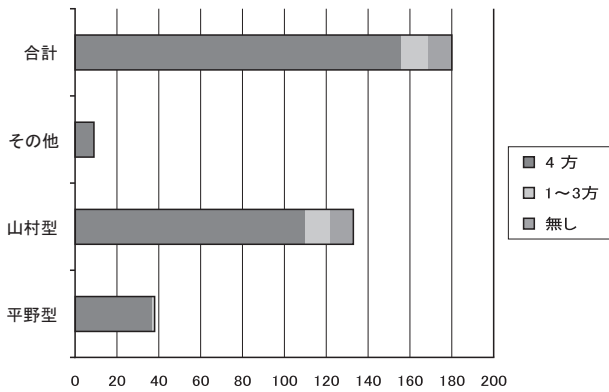


図15 下屋の形状



図16 葺き降ろし屋根



図17 四方下の屋根

外部建具は、後の改造によりアルミサッシになっているものがほとんどであるが、一部の民家では、創建時の形式である障子に板戸も見られた。

10) その他

軸部は大黒柱をドマと座敷の境に配されるものが多い。大黒柱がある家では、高さ6寸から1尺ほどの差鴨居が大黒柱のあるナカノマの四周に設けられているものが多く見られた。



図18 ヒシャギ竹の外壁

「ヤマト天井」と呼ばれる、竹を並べて編みつけ、その上に麦藁を敷き泥土を置く形式の天井の民家も多く見られた。大黒柱と差鴨居を持つ軸組や、ヤマト天井は、吉野川中流域の民家によく見られる特徴の一つである。

11) 付属屋

調査民家に共通して見られた付属屋として納屋があるが、山間部では煙草乾燥小屋（図19）や切妻の茅葺き屋根の納屋（図20）など、特徴的な付属屋が確認された。

剣山周辺の山間部では、敷地に余裕がないこともあり、土蔵を設ける民家は少ないが、南東部にある大藤集落では、比較的余裕のある敷地に瓦葺き漆喰仕上げの土蔵を設ける民家が見られた（図21）。また、この地域では、屋根は出桁に瓦葺き、外壁は真壁漆喰仕上げで、袖にうだつを上げている町屋のよ



図19 煙草乾燥小屋



図20 茅葺き屋根の納屋



図21 土蔵

うな納屋が見られた(図22)。大藤集落は、うだつの商家が建ち並ぶ半田の町と半田川でつながっており、これらの土蔵やうだつを有する納屋は、葉たばこの流通を通じて、半田の町屋の影響を受けたものと考えることができよう。



図22 納屋のうだつ

5. 旧三加茂町民家の特徴

すでに述べたように、旧三加茂町の茅葺き民家は、吉野川沿いの平地部や台地部の平坦地に立地するものと、山間部の溪谷盆地に立地するもので、屋敷構えや形式が大きく異なる。

前者は、平野型の屋敷構えで主屋は主として南向きに建てられ、間取りはほとんどが四間取である。下屋の形式も「四方下」であるなど、吉野川中・下流域の民家と共通点が多い。これらの地域では、左勝手が多いのも特徴の一つであるが、今回の調査では、左勝手と右勝手が同数であった。左勝手は洪水被害の多かった平野の低地部に特に多く見られるが、旧三加茂町の場合は、洪水の多かった吉野川周辺部には茅葺き民家が余り立地していないことが、左勝手が比較的少ないことの要因のひとつとして考えられる。

構造形式として、大黒柱と差鴨居を用いるものが多かったが、周辺的美馬市や三好市三野町でも、これまでの調査で同様の傾向が見られた。吉野川中流域の架構の特徴の一つと言えよう。また、「阿波の民家」では、この地区の特徴の一つとして、上屋と下屋からなる下屋造りの構造形式を用いる民家が多いとしているが、今回の調査では、軸組や小屋組の詳細を調査することができなかったため、その点は明らかにできなかった。今後の課題としたい。

山間部に位置する民家は、ほとんどが山村型の屋敷構えで、主屋は谷に向かって建てられている。しかし、緩やかな傾斜地に位置する集落では、平野型の屋敷構えの民家が見られた。他の山村部には見られない、旧三加茂町民家の特徴の一つである。

間取りは四間取が多数を占めるが、中ネマ三間取や横二間取の間取り、中ネマ三間取の発展系と考えられている鍵座敷四間取が確認された。「阿波の民家」では、これらの間取りは、旧三加茂町山間部を含む剣山地西部北斜面の山間地や吉野川の北岸の山間部の民家に特徴的としている。「阿波の民家」が主として19世紀以前の民家を対象に特徴を示していること、また、旧三加茂町では十分な調査データが得られていないことから、中ネマ三間取や横二間取、鍵座敷四間取が支配的な間取り形式であったかどうか

か、判断することは困難である。しかし、これらの間取りが昭和期に入っても採用されていたことから、伝統的な間取りの形式として継承されてきたと考えることができよう。

構造形式としては、平野部同様、大黒柱と差鴨居を用いるものが多かった。比較的新しい構造形式とされているが、中ネマ三間取や横二間取が多い祖谷地方ではほとんど見られないものである。また、剣山地西部、北斜面の山間地の民家は、下屋造りが多いとされているが、平野部同様、軸組や小屋組の詳細を調査することができなかつたため、その点は明らかにできなかった。

山間部の民家の下屋については、9割近くの民家で確認されたが、トタン葺きが多く、瓦を葺いているものは少ない。聞き取りや外観から、後の改造により下屋を設けたものも確認されている。これらのことから、「阿波の民家」でも指摘している通り、「四方下」形式の瓦葺きの下屋の発達は遅く、比較的新しい形式と考えることができる。

山間部で見られた土蔵やうだつを上げる納屋は、つるぎ町「旧貞光町」の山間部でも確認されている。旧貞光町にも、うだつの町屋が中心部の町並みを形成しており、その影響を受けたものと考えられる。県西部の山村民家の特徴の一つにあげられるとともに、山間部の民家が独自に変化しているのではなく、平野部など、他の地域の影響を受けながら変化を遂げていることの証の一つと考えられよう。

屋根の茅葺きについては、今回の調査で年代が確認された民家の中で最も新しいものが昭和24年であること、聞き取りにより昭和30年代から、茅葺きの

上にトタンを覆うようになったことから、昭和40年代から「屋根に茅を葺く」という営みは行われなくなったものと考えられる。その要因として、杉の植林による茅場の消失と、トタンなどの工業製品の普及を上げることができる。

6. おわりに

茅葺き民家をはじめとする、伝統的な建造物は年々減少の一途をたどっているなか、旧三加茂町で190軒が現存しているのは、大変貴重なことである。しかし、その4割余りは空家であり、中には廃屋となっているものもかなりある。住居として利用されているものも、住まい手の高齢化は進み、「この家も私の代まで」という声もたくさんあった。今後もこの傾向は続くものと思われるが、先人たちの残した貴重な生活文化や伝統、住まいづくりの技術などを、次の世代へと継承していく手立てが必要と思われる。

最後になりましたが、本調査に快くご協力いただいた住民の皆様をはじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 阿波の民家 奈良国立文化研究所・徳島県教育委員会（1976）
 三加茂町史 三加茂町教育委員会（1973）
 三野町の民家 阿波学会紀要第49号 阿波学会・徳島県立図書館（2003）
 美馬市美馬町の民家 阿波学会紀要第55号 阿波学会・徳島県立図書館（2009）
 三野町の民家 阿波学会紀要第56号 阿波学会・徳島県立図書館（2010）
 三野町の民家 阿波学会紀要第58号 阿波学会・徳島県立図書館（2012）

Traditional farmers' houses of "ex-Mikamo Cho", Tokushima, Japan

IKAWA Akiko, ODA Marino, KAMAKURA Kazutoshi, KITA Junzo, KUWATA Seiji, SATO Akinari, SATO Hiromi, TAKATA Tetsuo, TAKAHAMA Yutaka, TANINAKA Toshihiro, TAMURA Eiji, NASU Yukio, HAYASHI Shigeki, HIROTA Kazumasa, FUKUDA Yorito, FUKUTOME Ayaka, MATSUI Kouki, YOSHIDA Tetsuya,
 Proceedings of Awagakkai, No. 59(2013), pp.89-100